

2019年度「自立援助ホーム支援助成」助成事業実施報告書

団体名 NPO法人アイグループ代表者・役職名 氏名 理事長 國分健作

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

すべての子どもが健やかに育つ

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2016年から任意団体で活動を始め、2017年6月にNPO法人を開設。その後2018年2月に自立援助ホームを始めています。会員数は、21名

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

思春期の児童にとって、親や家族の支援がないことでの課題は、計り知れない。児童は、就労をして自立の為に必要な貯金や生活に必要な出費を行います。高校で学ぶ保健知識がなく不安を抱えています。家族の扶養なら親が医療費を支払いますが、ここでは本人が負担なので、体調は後回しにする。結果、心身を病んでいる。九州は地震も発生し、防災への備えも必要です。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

保健師や助産師の方を講師に招き、思春期から成人期に向けた保健について学ばせたい。年に1回の定期検診など、児童たちに無料で受けて健やかな心身を維持してほしい。就労して給与を得ている児童にも、医療費の支援をしてあげたい。遠方から利用している児童も多い、帰省して交流を支援したい。福岡・熊本は豪雨や地震など災害にあっています。防災グッズも備えたい。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

保健を学ぶことで、児童が性について意識することができた。また職員との相談支援につながった。心身の管理を行う予算を設けられることで、児童も受診拒否もなく受診することができた。遠方への交通費・宿泊費を支援できることで、親族との関わりを持って、自立につながった。災害の際に、身を守るための安心が得られました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

保健を学ばせることは、必要性を高く感じました。ただ、保健の内容は、思春期の児童には様々な反応があり、「自分は大丈夫」という感覚が取り除けないことも分かった。この点については、継続した支援が必要だと課題として捉えました。医療費については、児童が明らかに受診意欲が変わり、健康面が保たれた結果となりました。この取り組みは、継続して続けていく考えです。

7. 参考資料

支援対象事業で作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

